

令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 田原中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和3年5月27日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第2学年	国語	60人	社会	60人	数学	61人
	理科	61人	英語	61人		

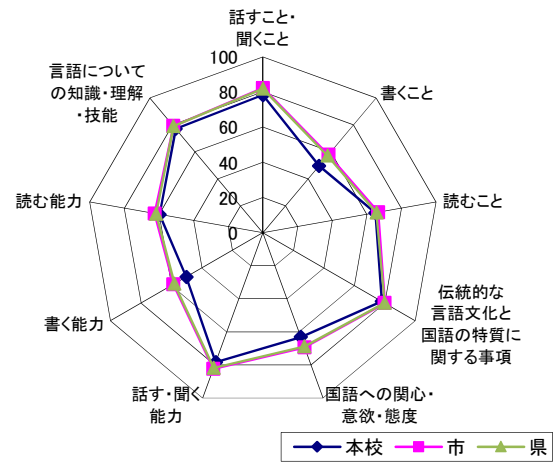
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立田原中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	78.3	82.3	81.8
	書くこと	49.6	58.0	57.2
	読むこと	65.0	66.6	65.6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	78.1	80.0	79.9
観点	国語への関心・意欲・態度	63.1	69.4	68.8
	話す・聞く能力	78.3	82.3	81.8
	書く能力	50.2	58.8	58.1
	読む能力	59.7	62.5	61.7
	言語についての知識・理解・技能	77.1	79.2	79.1



★指導の工夫と改善

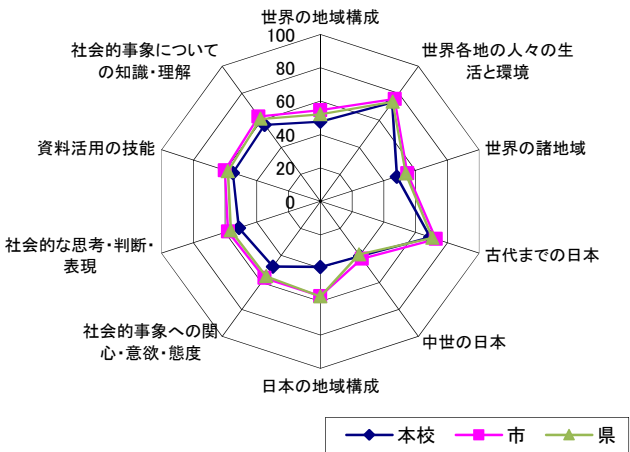
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市・県よりもやや低い。 ○話の内容や、聞き手に理解してもらうための話し方の工夫などについて聞き取ることは、正答率が県平均とほぼ同じである。 ●相手の発言を注意して聞いて、自分の考えをまとめる問題の正答率が、県の正答率に比べてかなり低い。	・話し合い活動の際の留意点にはどんなことがあるか、話す側と聞く側、それぞれの立場から考えさせ、それらを意識した活動を授業の中に取り入れていく。 ・聞き取り問題のCDなどを活用し、テーマに沿った話し合い活動の司会・進行のしかたなどを、的確に指導する。 ・ある問題について自分はどうか考えるか、他の意見を踏まえてまとめる(話す)活動を、計画的に取り入れる。
書くこと	平均正答率は、市・県よりも8ポイント程度低い。 ○自分の考えを明確にして書く問題は、県平均に近い。 ●字数や、段落構成などの条件に沿った文章を書くことに不慣れで、抵抗感が大きいことがうかがえる。 ●伝えたい事実や事柄について、根拠を明確にして書く問題の正答率が、県を大きく下回っている。	・授業の中で「書く」活動を多く取り入れながら、書くことへの抵抗感を軽減させる。 ・条件付きの短作文や、テーマを決めた課題作文などに定期的に取り組ませる。 ・説明文の読解指導と併せて、筆者の意見の根拠の記述に注目させ、各自の記述の参考とさせる。
読むこと	平均正答率は、市・県とほぼ同レベルである。 ○文学作品の文章の特徴を捉える問題では、正答率が県を大きく上回っている。 ●説明文の読解では、文章の構成や展開に着目して、全体の内容を捉える問題での正答率が、県の正答率を5ポイント以上下回っている。	・説明的な文章の読解においては、文章構成や展開に細かく注目して指導する。 ・筆者が、どんな根拠に基づいて、どういう意見を読者に投げかけているのかを的確に捉えさせる。 ・反対意見を想定した書き方などにも着目し、各自の作文等の参考とさせる。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は、市・県と比べわずかながら低い。 ○中1で学習した漢字の読みや文節の働きについての理解がよくできている。 ●小学校で学習した漢字の書き取りは、ほぼ県と同等の正答率であるが、「貸す」の正答率はかなり低い。	・漢字や文法を正しく身に付けるには、反復練習や日常での意識的な活用が大切であることを、くり返し伝える。 ・文法の学習は、一方的な指導授業にならないよう心掛け、生徒が主体的に学びに向かえる形態の授業を行っていく。 ・教科書に沿った、「新出漢字練習プリント」と確認テストを継続して作成し、漢字力の定着に努める。

宇都宮市立田原中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	世界の地域構成	47.8	54.7	52.3
	世界各地の人々の生活と環境	73.3	75.9	73.7
	世界の諸地域	48.2	54.8	53.9
	古代までの日本	69.1	72.7	70.5
	中世の日本	40.4	42.4	39.3
	日本の地域構成	39.2	56.7	56.9
観点	社会的事象への関心・意欲・態度	48.3	56.7	55.3
	社会的な思考・判断・表現	51.3	58.1	56.4
	資料活用・技能	55.1	60.1	58.2
	社会的事象についての知識・理解	56.8	62.9	61.1



★指導の工夫と改善

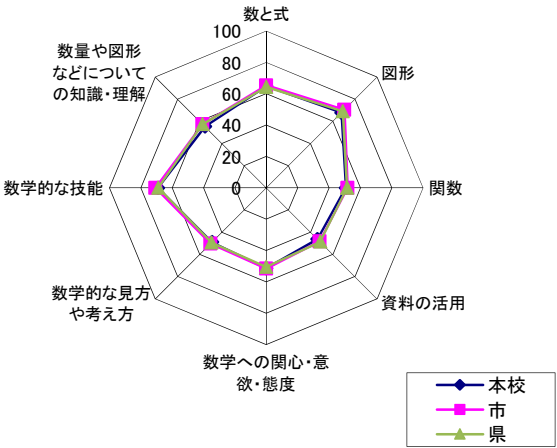
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
世界の地域構成	●国や大陸に対しての知識が不十分であり、その構成に対しても、全体像をとらえていない。	・世界地図、地球儀の復習が必要である。 ・世界地図を多用し、学習している地域が地球上のどこに位置するのかを把握しながら地域の特徴等の学習につなげていく。
世界各地の人々の生活と環境	○乾燥帯、高山気候については、十分な理解が見られる。 ●資料から、気候の特徴を読み取る能力が十分に身に付いていない。	・雨温図から気候を読み取る力をつけられるよう、日本地理で学習する必要がある。 ・日本にはない気候帯について、雨温図を使いながら人々の生活に目を向けさせ、違った地域でも、気候が同じなら、生活様式に共通点があることを理解させる。
世界の諸地域	○アジアについては、ある程度の理解を示している。 ●北米、ヨーロッパ、オセアニアに対する知識と理解が不十分である。	・2学年の学習の中で、日本と世界のつながりから復習を行っていく。 ・日本の学習を行いながら、世界各国とのつながり(特に貿易)を意識させ、世界の国々の特徴が、日本にどのような影響を与えているのかを理解させる。
古代までの日本	○竪穴住居や古代文明に対しての理解は十分である。 ○奈良・平安の法規、文化についての理解は高い ●古代の道具やそれを使っていた生活については理解が低い。	・具体資料を提示して、理解を促す。 ・当時の社会の中で、どのような道具がどのように役立っていたのか、現在とどのような点で違うのかを道具の使い方と社会の様子から理解させる。
中世の日本	○鎌倉時代初期の理解は十分である。 ●室町時代以降の支配体制については、やや理解が浅い。	・武家政権の特徴と、当時の社会の状況を段階的に復習をさせていく。 ・武家政権が完全に安定せず、古代の律令制から脱皮できない様子を南北朝の混乱や、国司と地頭、悪党の発生から武士が貴族を凌駕し、新しい時代へとつながっていく様子を絵巻物や年表を使用して考察させる。
日本の地域構成	●日本の位置に関する、機能的な理解が不十分である。	・地域学習をしながら、理解を深めていく。 ・日本の諸地域の学習を通して、日本が世界の中でどのような位置を示しているのかを理解させる。

宇都宮市立田原中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	64.9	65.4	64.4
	図形	67.8	70.5	69.0
	関数	50.8	51.9	51.5
	資料の活用	46.2	48.1	48.6
観点	数学への関心・意欲・態度	51.2	51.5	50.4
	数学的な見方や考え方	48.9	50.2	49.4
	数学的な技能	69.1	70.6	68.9
	数量や図形などについての知識・理解	55.3	57.5	57.4



★指導の工夫と改善

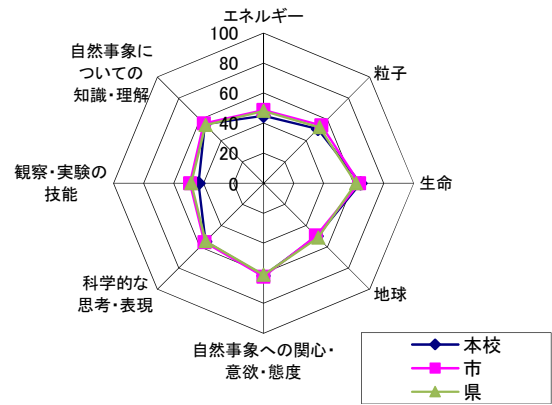
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	平均正答率は、市の平均に比べて0.5ポイント低い。 ○1次方程式において、市の平均正答率を上回っている。 ○文字と式での立式や数量の変化をよく読み取ることができている。 ●正負の数の計算の定着がまだ徹底できていない。 ●文字と式の立式理由が説明できない。	・計算問題については、途中計算を書かせたり、誤答問題を見て間違いを探させたりと間違いやすいポイントを確認する機会を増やしていく。 ・自分自身の出した答えの理由を説明する能力が弱いいため、友人との教えあいの場を充実させたり、自分の考えを言葉に書き表したりと言語化する習慣をつけさせる。
図形	平均正答率は、市の平均に比べて2.7ポイント低い。 ○回転体について理解できている。 ○ねじれの位置について理解できている。 ●課題解決に必要な作図の仕方を理解できていない。 ●おうぎ形の面積を求めることができていない。	・定期的に復習を行い、ただやみくもな作図ではなく、理論を踏まえた上で作図ができるよう繰り返し指導していく。 ・ICT等を活用しおうぎ形が円の一部分であることを理解させ、公式を忘れてしまっても具体的な数値を用いて、公式につながる考え方を導けるよう指導していく。
関数	平均正答率は、市の平均に比べて1.1ポイント低い。 ○グラフを読み取り必要な情報を得ることができている。 ●文字式がどんな数量を表しているか理解することができていない。	・関数は2つの数量について、表・式・グラフを利用し、特徴をつかんでいくことが必要となるため、文章を読み取り表・式・グラフに形として正しく表すことのできるよう繰り返し指導していく。 ・式からどんな数量の関係が読み取ることができるのか言語化する習慣をつけさせるよう、順を追って説明する機会を充実させる。
資料の活用	平均正答率は、市の平均に比べて1.9ポイント低い。 ○相対度数について、よく理解できており、正しく求めることができています。 ●累積度数については理解できていない。	・身近な資料を用いて、読み取ることのできる値がそれぞれどのような意味を持つのかを考える活動を定期的に取り入れる。また、その読み取る値から資料の特徴をつかみ、言語化する習慣もつけさせるように指導していく。

宇都宮市立田原中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	44.9	48.8	48.1
	粒子	51.1	54.4	52.6
	生命	64.5	63.7	61.5
	地球	50.0	49.4	51.4
観点	自然事象への関心・意欲・態度	61.7	62.3	61.1
	科学的な思考・表現	54.9	55.7	54.8
	観察・実験の技能	43.4	49.0	48.3
	自然事象についての知識・理解	55.6	56.3	54.8



★指導の工夫と改善

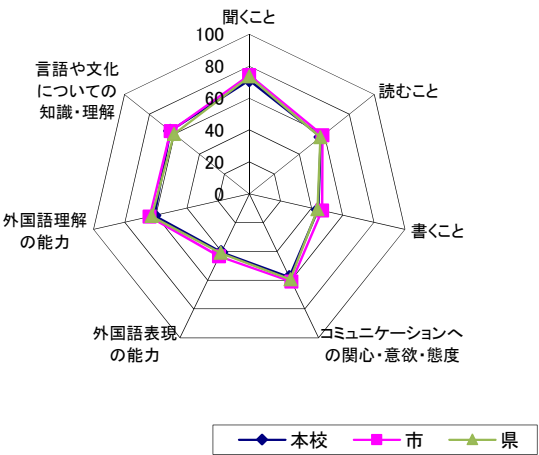
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	○音に関する問題の正答率は、市内平均とほぼ等しく、定着していると考えられる。 ●光に関わる問題への正答率が県平均と比べて8ポイント近く低くなっている。特に、作図に関しては苦手としている生徒が多くみられる。	・作図についての演習を多く設け、なぜそのような方法になるのか理解させていきたい。 ・エネルギーという概念を、イメージしやすくなる授業をしていきたい。
粒子	○水溶液の性質に関しては、市内平均程度の正答率であり、かなり定着していると考えられる。 ○気体の発生方法に関しては県内平均を18ポイント近く上回っており、非常によくできている。 ●質量パーセント濃度を求める問題では県内平均を8ポイント下回っており、苦手としている生徒が多い。	・語句や実験方法などについてはかなり定着しているので引き続き指導を続けていく。 ・計算に関しては、簡単な計算から繰り返し続けることで少しずつ苦手意識を減らしていきたい。
生命	○全体的に市内平均を上回っている。特に花粉に関する問題に関しては市内平均を17ポイント上回っている。 ●単子葉類の分類に関しては8ポイント下回っており、苦手としている生徒が見られる。	・植物、動物に関しては定着しているので、引き続き生徒の関心を高める授業をしていきたい。
地球	○示相化石に関する知識を問う問題では県内平均を5ポイント上回っている。 ●火成岩のつくりに関しては市内平均を10ポイント下回っている。	・昨年度、観察の授業がコロナ対応で実施できていなかったことが響いていると感じた。観察が実施できない分代替の授業が必要になってくる。

宇都宮市立田原中学校 第2学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	71.3	74.4	73.5
	読むこと	57.3	58.7	56.9
	書くこと	44.2	46.8	43.9
観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	57.9	61.0	59.4
	外国語表現の能力	40.5	43.5	41.1
	外国語理解の能力	61.0	64.0	62.8
	言語や文化についての知識・理解	63.3	62.9	60.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	平均正答率は市の平均に比べ、3.1ポイント低い。 ○時刻を聞き取る問題では正答率が市より高く、また対話文の応答や様々な英文の概要を聞き取る問題では良好であった。 ●英文の要点を聞き取る問題では、正答率が32.8%と低かった。また、対話の内容を聞き取り、資料をもとに英語で答える問題では正答率が7.4%と非常に低い結果だった。	・普段の授業において、教師やALTのsmall talkや生徒同士で行うペア活動を通して、英語でのやり取りを継続して聞く力を高めていく。 ・ある程度まとまった英文を聞く機会を与え、要点や概要を聞き取る力をつけていく。 ・教科書本文の内容理解時にも、題材によってはまずは聞かせて概要や要点を聞き取る活動をしていく。
読むこと	平均正答率は市の平均に比べ、1.4ポイント低い。 ○語形・語法の知識理解を問う問題では良好な結果だった。 ○対話の流れから登場人物の適切な発言を判断する問題やメールの内容を把握し適切な件名を選ぶ問題の正答率は、市の正答率より高かった。 ●メールの内容を読んで、買った本を選ぶ問題の正答率は、23.0%と細かい部分の読み取りに課題が見られる。	・今後も大まかな内容や要点がつかめたかどうかTFクイズを行ったり、Q&Aを行っていく。 ・代名詞が何を指すのかなどを取り上げ、細かい部分での読み取りができているかも確認していく。
書くこと	平均正答率は市の平均に比べ、2.6ポイント低い。 ○単語の並べ替えによる英作文や与えられた情報に基づいて書く英作文の問題は良好である。 ●場面に応じて書く英作文では、whereを使って場所をたずねる文の正答率が18.0ポイントと課題が見られた。	・既習の語句や文法を何度もくり返し使う機会を与え、定着を図る。 ・簡単な語句や基本文の練習を家庭学習に位置付け、小テストを行い定着を確認していく。 ・事実だけでなく、理由や自分の考え気持ちなども整理して、まとまった英文を書けるよう、自己表現活動を行って書く力をつけていく。

宇都宮市立田原中学校 第2学年 生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

【学習について】

○学ぶことに対して前向きな姿勢である生徒が多い。「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」や「勉強していて不思議だな、なぜだろうと思うことがある」、「疑問や不思議に思うことは、わかるまで調べたい」といった学習に対する関心についての項目や「学校の宿題はやりたくなる内容だ」や「学校の宿題は自分のためになっている」といった宿題に焦点を当てた項目で市や県の肯定割合を5～10ポイントほど上回っている。

○課題解決に向け、計画的に努力し、自身の学習を振り返ることのできる生徒が多い。「家で自分で計画を立てて勉強している」や「家で学校の授業の復習をしている」、「家でテストで間違えた問題について勉強している」のいずれの項目についても「はい」の割合が市や県を10ポイントほど上回っている。「難しい問題に出会うとよりやる気がでる」や「できるだけ自分1人の力で課題を解決しようとしている」といった項目においても市や県の肯定割合を10ポイント以上上回っている。課題解決に向け、粘り強く自分と向き合い努力していることが読み取れる。

●平日や週末の家庭学習の時間が少ない。週末の学習時間については「まったくしない」が8.1ポイント、平日の学習時間が「30分未満」が12.9ポイントといずれも市や県と比べると4ポイントほど低い。長い時間の学習に取り組む生徒もいるため、差が大きくなってしまっている状況である。学習すべき内容を定期的に伝え、自分の到達度と目標を照らし合わせ、模範となる生徒を例に、率先して学習に取り組むよう指導していく。

●「グループなどの話し合いに自分から進んで参加している」は、市や県の肯定割合を10ポイント以上下回り、「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」は否定的な割合が50ポイントを超えている。自分の考えを発表したり、共有したりすることが苦手な傾向がある。授業の様子を見ていると、自信が持てず発表に向かえないような様子があるため、ヒントを段階的に出したり、机間指導の際に意見を肯定したりして、自分の考えや意見を伝えることに自信をもって取り組めるよう指導していく。

【生活について】

●「学校のきまりを守っている」の質問への肯定的回答は、市や県よりも20ポイントも低い。また、「学校での役割や係の仕事に責任をもって取り組んでいる」の質問への肯定的回答も市や県より約10ポイント低い。きまりを守ることの大切さや学校の一員としての自覚をもたせ、係の仕事に責任を持って取り組むことの大切さを伝え規範意識を高めていく。

●「ふだん、一日当たりどれくらいゲームをするか」や「ふだん、一日当たりどれくらいの時間通話やメール、インターネットをするか」の質問に対する回答は市や県より長い時間使用している生徒が多かった。普段の学校生活に影響がないよう、利用時間を考え使用するように指導していく。

○「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ている」「地域や社会で起こっている問題やできごとに関心がある」などの質問への肯定的回答は市や県の割合より10ポイント以上高く、社会に興味関心が高いと言える。

○「自分もっている能力を十分に発揮したい」「将来の夢や目標をもっている」への肯定的回答は市や県よりも高く、全体的に将来への意識が高い。また「家の人と学校のできごとについて話をしている」への肯定的回答は市や県より約10ポイント高く、家族との関係も良好であると言える。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・わかる授業を展開する工夫	・基礎基本を確実に習得させるために、ねらいと振り返りを行いその時間に学ぶべきことがわかったかどうか確認させる。	・「学習したことを振り返る活動をよく行っている」の質問への肯定的回答は、昨年度よりも下がってしまった。その授業で何がわかったのかしっかり身に付けさせるためには振り返る活動をしっかり行っていく。
・家庭学習の習慣化	・タブレットの有効的な活用	・「分からないことがあると先生に聞くことができる」の質問への肯定的回答は、82.2%と良好な関係を築くことができている。
・学習態度や学習習慣を身に付けさせる指導の充実	・家庭学習時間の目安や家庭学習の重要さの周知と担任や委員会からの呼びかけと小テストを授業内で行うことで、家庭学習内容の充実を図る。	・「家で学校の授業の復習をしている」「テストで間違えた問題について勉強をしている」などの質問への肯定的回答は市よりも高かった。
	・2分前着席と準備の呼びかけや学習用具の持ち帰りの徹底	

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・今までの学年と比べると学習への興味関心が高く意欲の高い生徒が多い。	・意欲を保てるよう、一層のわかる授業を展開する工夫をしていく。	・ねらいをはっきりさせ、ねらいに迫る授業の展開と振り返り活動の実施徹底
		・ICTやタブレットの有効的な活用